

令和7年度

事業報告書

社会福祉法人和福社会

1. 法人の概要

(1) 法人の基本情報

法人名：社会福祉法人和福社会

所在地：岡山県倉敷市山地 1 2 9 7 番地

設立年月日：平成 1 9 年 3 月 6 日

(2) 実施事業の概要

- ・介護老人福祉施設 3 事業所
 - 特別養護老人ホーム庄の里（本館） 定員 5 0 名
 - 特別養護老人ホーム庄の里（新館） 定員 6 0 名
 - 地域密着型特別養護老人ホーム庄の里「なごやか」 定員 2 9 名
- ・軽費老人ホーム 1 事業所
 - ケアハウス庄の里 定員 1 5 名
- ・認知症共同生活介護 2 事業所
 - グループホーム庄の里「なごみの家」 定員 1 8 名
 - グループホーム庄の里「和らぎの家」 定員 1 8 名
- ・通所介護 3 事業所
 - 庄の里デイサービスセンター 定員 4 0 名
 - デイサービスセンター庄の里「なごやか」 定員 1 5 名
 - 認知症対応型デイサービスセンター庄の里「なごやか」 定員 1 2 名
- ・短期入所生活介護 2 事業所
 - 特別養護老人ホーム庄の里（本館） 定員 1 0 名
 - ショートステイ庄の里「なごやか」 定員 1 0 名
- ・訪問介護 1 事業所
 - 庄の里ヘルパーステーション
- ・居宅介護支援 1 事業所
 - 庄の里居宅介護支援センター
- ・地域包括支援 1 事業所
 - 倉敷市庄北高齢者支援センター
- ・保育所 2 事業所
 - 庄保育園 定員 1 7 0 名
 - 庄なかよし小規模保育園 定員 1 9 名
- ・放課後児童健全育成事業 1 事業所
 - 庄学区仲よし児童育成クラブ 定員 2 0 0 名
- ・福祉有償運送 1 事業所
 - 庄の里福祉移送サービス

2. 法人運営の基本方針

法人理念である「明るい笑顔」「元気な挨拶」「丁寧な仕事」を大切にし、利用者・子ども・家族・地域に安心を届ける法人を目指した。日々の関わり一つひとつを大切にし、地域

に必要とされ続けるサービスの提供に取り組んだ。

3. 事業所別運営状況

(1) 特別養護老人ホーム庄の里（本館）（新館）

今年度は、各職員が自身の役割に対する責任を持ち、日常業務を遂行する姿勢は概ね維持されていたと評価できる。一方で、ケアの場面においては、個々の利用者に対する意図や根拠を十分に意識した実践にばらつきが見られ、一部では業務が作業的となっている状況も見受けられた。

組織全体としては一定の水準に達しているものの、「考えを持ったケアの実践」という点では改善の余地があり、総合的には概ね7割程度の達成状況と捉えている。今後はケアの意図や根拠を共有・言語化する機会を増やし、ケアの質の向上に努めていく。

(2) 地域密着型特別養護老人ホーム庄の里「なごやか」

年間平均稼働率は96%。比較的安定した運営を図った。待機者数は年度末時点で120名であった。ユニットケアの特性を活かし、入居者の「馴染みの関係」の継続を重視した支援に努めた。季節を感じる行事食やおやつ作りを定期的の実施するとともに、外部ボランティアや地元高校生のインターンシップを受け入れ、多世代交流および介護職の魅力発信に努めた。

(3) グループホーム庄の里「なごみの家」

家庭的な雰囲気づくりや利用者の役割づくりに取り組み、生活の質の向上につなげることができた。接遇についても研修を実施し、理念を踏まえた対応に努めたことで、ご家族との信頼関係の構築を図った。また、外出行事や個別外出の機会を設け、楽しみのある生活の提供に努めた。

(4) グループホーム庄の里「和らぎの家」

日々の関わりを通じて、入居者の表情や会話が增え、穏やかに過ごされる場面が多く見られた。季節行事やレクリエーションの実施により、楽しみのある生活環境の提供に努めた。

また、報告・連絡を徹底することで、ご家族との信頼関係の構築を図った。一方で、活動参加に差が見られたことから、今後は個別性を重視した支援の充実に努めていく。

(5) ケアハウス庄の里

居宅介護、訪問介護、デイサービスとの連携については概ね7割程度の達成状況であった。他事業所との意見調整に課題が見られたことから、今後は相互の役割を尊重し、連携強化に努めていく必要がある。家族との信頼関係の構築については概ね良好に図ることができた。入居者の介護度が高まる中においても、可能な限りケアハウスでの生活継続ができるよう支援に努めた。今後は次のサービスへの円滑な移行も視野に入れた支援に努めていく。

(6) 庄の里デイサービスセンター

利用者の意向に基づき、具体的かつ達成可能な目標設定を行い、計画的なサービス提供に努めた。馴染みの環境や人間関係を維持し、安心できる環境づくりを図るとともに、個々の嗜好の分析および共有を行い、自発的な行動の促進に努めた。また、複数のアクティビティを提供し、自己選択の機会を確保することで、認知機能および身体機能の維持向上を図った。ADLや家庭環境の把握に基づき、統一した介助の実施および適宜処遇の見直しを行った。職員に対しては個別の目標設定を行い、研修等を通じて資質向上に努めた。

(7) デイサービスセンター庄の里「なごやか」

利用者のニーズ把握に努め、在宅生活の継続を支援する個別対応を行った。利用者の意思および人格を尊重し、利用者本位のサービス提供に努めた。また、家族を含めた包括的支援の実現に向け、関係機関との情報共有および連携強化に努めた。

(8) 認知症対応型デイサービスセンター庄の里「なごやか」

利用者の状態把握から支援までを一体的に捉え、自立支援を意識したケアの実践に努めた。認知症の程度や個別状況に応じた柔軟な対応を行い、最後まであきらめない支援を実施した。利用者および家族が安心して利用できる環境づくりに努めた。

(9) ショートステイ庄の里「なごやか」

年間平均稼働率は93%であった。居宅介護支援事業所との連携強化により、新規利用者の確保につながった。週末や大型連休時の利用ニーズに対応するため、計画的な予約管理に努めた。また、急な利用依頼やレスパイトケアのニーズにも対応し、空床調整を行いながら柔軟な受け入れ体制の確保に努めた。

(10) 庄の里ヘルパーステーション

ケアプランに基づき、利用者の体調や生活状況の変化に応じたきめ細やかな支援に努めた。他職種および関係機関との連携を図り、概ね計画どおりのサービス提供を行った。身体介護においては、利用者の身体機能の維持に配慮した支援を実施し、入院等のリスク低減に努めた。今後も事業の継続性を意識し、安定した運営に努めていく。

(11) 小規模多機能ホーム庄の里「つどいの家」

利用者一人ひとりの生活背景や思いに寄り添い、家庭的で安心できる環境づくりに努めた。季節行事や食事、地域交流を通じて、生きがいや楽しみのある生活の提供を図った。職員の丁寧な対応により、利用者および家族が安心して在宅生活を継続できるよう支援に努めた。

(12) 庄の里居宅介護支援センター

長期入院により在宅復帰が困難となるケースが見られたが、新規利用者の確保により安定した運営を維持した。今後も関係機関との連携を強化し、相談支援体制の充実および支援技

術の向上に努めていく。

(13) 倉敷市庄北高齢者支援センター

高齢者実態把握の強化により、支援ニーズの早期発見および適切な支援につなげることができた。また、小地域ケア会議や地域活動を通じて地域づくりの推進に努めた。さらに、地区診断や地域活動を通じて住民ニーズの把握を行い、介護予防の推進に努めた。

(14) 庄の里福祉移送サービス

利用者とのコミュニケーションを重視し、安心して利用できる環境づくりに努めた。料金改定後も継続利用が見られ、一定のニーズに対応することができた。今後もサービスの質の向上に努めていく。

(15) 庄保育園

「子どもの最善の利益」を最優先とし、愛着形成および職員連携の強化に努めた。年間テーマに基づく教育・保育活動を実施し、基本的な生活習慣の定着を支援した。また、地域交流や実習生受入を通じて開かれた運営に努めた。年度末には定員170名に対し171名の入所となり、安定した運営を図ることができた。

(16) 庄なかよし小規模保育園

保護者支援および業務見直しを行い、職員間の共通理解を深めることで安心して利用できる環境づくりに努めた。ICT導入を進め、業務効率化を図った。今後も保護者との信頼関係の構築および保育の質の向上に努めていく。

(17) 庄学区仲よし児童育成クラブ

基本的な生活習慣の習得や思いやりの心の育成を目標に、児童の主体的な活動を支援した。関係機関と連携しながら、安心して過ごせる環境づくりに努めた。また、地域との交流や防災訓練の実施により、地域とのつながりの強化を図った。

(18) 倉敷市ボランティア送迎支援事業

買い物等の日常生活に必要な外出支援を行うことで、地域住民の生活の利便性向上に努めた。

4. 事業実績（利用状況）

(1) 特別養護老人ホーム庄の里（本館）

①稼働状況

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
98%	97%	98%	97%	99%	99%	96%	96%	97%	97%	97%	99%	97%

※前年の平均稼働率 97%

②利用者状況（３月３１日時点）

介護度構成：要介護３以上 98% 平均要介護度 3.8

平均年齢：男性８３歳・女性８８歳

平均在所期間：３年

③利用者の動き

入居：８名

退居：８名（死亡４名・入院３名・その他１名）

待機者：３４１名（男性１３４名・女性２０７名）

（２）特別養護老人ホーム庄の里（新館）

①稼働状況

４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	平均
97%	97%	97%	98%	95%	96%	97%	99%	98%	97%	97%	96%	97%

※前年の平均稼働率 97%

②利用者状況（３月３１日時点）

介護度構成：要介護３以上 97% 平均要介護度 3.9

平均年齢：男性８１歳・女性８８歳

平均在所期間：２年１１ヶ月

③利用者の動き

入居：１３名

退居：１３名（死亡１０名・入院２名・その他１名）

待機者：２０２名（男性５４名・女性１４８名）

（３）特別養護老人ホーム庄の里（本館）ショートステイ

①稼働状況

４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	平均
90%	96%	94%	102%	99%	98%	93%	101%	97%	98%	96%	95%	96%

※前年の平均稼働率 93%

②利用者状況

新規利用者数２６名

利用終了者数１０名

(4) 地域密着型特別養護老人ホーム庄の里「なごやか」

①稼働状況

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
97%	96%	97%	97%	97%	93%	93%	96%	98%	99%	96%	98%	96%

※前年の平均稼働率 98%

②利用者状況（3月31日時点）

介護度構成：要介護3以上 100% 平均要介護度 4.4

平均年齢：男性79歳・女性89歳

平均在所期間：2年3ヶ月

③利用者の動き

入居：13名

退居：11名（死亡5名・入院6名・その他0名）

待機者：120名（男性72名・女性48名）

(5) グループホーム庄の里「なごみの家」

①稼働状況

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
99%	100%	100%	95%	93%	92%	97%	99%	89%	95%	94%	91%	95%

※前年の平均稼働率 97%

②利用者状況（3月31日時点）

介護度構成：要介護3以上 59% 平均要介護度 2.6

平均年齢：男性86歳・女性85歳

平均在所期間：2年5ヶ月

③利用者の動き

入居：5名

退居：4名（死亡0名・入院4名・その他0名）

待機者：3名（男性1名・女性2名）

(6) グループホーム庄の里「和らぎの家」

①稼働状況

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
99%	99%	99%	100%	99%	100%	100%	98%	98%	98%	93%	98%	98%

※前年の平均稼働率 96%

②利用者状況（３月３１日時点）

介護度構成：要介護３以上 61% 平均要介護度 2.6

平均年齢：男性９９歳・女性８９歳

平均在所期間：４年８ヶ月

③利用者の動き

入居：１名

退居：１名（死亡０名・入院０名・その他１名）

待機者：２名（男性１名・女性１名）

（７）ケアハウス庄の里

①稼働状況

４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	平均
100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

※前年の平均稼働率 100%

②利用者状況（３月３１日時点）

介護度構成：要介護２以上 10名 平均要介護度 1.8

平均年齢：男性８６歳・女性８８歳

平均在所期間：４年７ヶ月

③利用者の動き

入居：１名

退居：１名（施設入居１名・入院０名・その他０名）

待機者：２３名（男性６名・女性１７名）

（８）庄の里デイサービスセンター

①利用状況

利用率：７８％（前年８３％）

１日の平均利用人数：３１名

登録者数：７５名

新規利用者数：２３名

利用終了者数：２３名

（９）デイサービスセンター庄の里「なごやか」

①利用状況

利用率：７３％（前年７４％）

１日の平均利用人数：１１名

登録者数：３５名

新規利用者数：１２名

利用終了者数：９名

（１０）認知症対応型デイサービスセンター庄の里「なごやか」

①利用状況

利用率：８３％（前年６９％）

１日の平均利用人数：７．８名

登録者数：１９名

新規利用者数：５名

利用終了者数：７名

（１１）ショートステイ庄の里「なごやか」

①稼働状況

４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	平均
84%	88%	95%	97%	90%	88%	94%	94%	94%	102%	96%	101%	93%

※前年の平均稼働率 ８８％

②利用者状況

新規利用者数：３６名

利用終了者数：１５名

（１２）庄の里ヘルパーステーション

①利用状況

利用者数：４４名

延べ訪問回数：４，１９７回（月平均３４９回）

サービス提供時間：３，８１８時間（月平均３１８時間）

新規利用者数：２４名

利用終了者数：７名

（１３）小規模多機能ホーム庄の里「つどいの家」

①利用状況

登録者数（定員２５名）

４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	平均
24名	25名	25名	25名	24名	25名	25名	25名	25名	24名	24名	23名	24名

※前年の平均登録者数 ２１名

通い：月平均２９２名

泊り：月平均３８７名

訪問：月平均 1 2 3 名
新規利用者数：1 2 名
利用終了者数：1 3 名

（14）庄の里居宅介護支援センター

①利用状況

担当件数：1, 1 3 2 件（前年 1, 1 7 2 件）
新規利用件数：3 2 件
利用終了件数：2 6 件

（15）倉敷市庄北高齢者支援センター

①利用状況

相談件数：7 3 1 件（月平均 6 0 件）
相談件数は、実態把握調査・介護予防支援・介護予防ケアマネジメント利用者を除く件数
予防給付プラン：1, 1 1 9 件（月平均 9 3 件）
委託請求件数：4 1 5 件（月平均 3 4 件）
実態把握件数：6 1 9 件（月平均 5 1 件）

（16）庄の里福祉移送サービス

利用者数：5 1 名
年間利用回数：3 5 5 回（月平均 2 9 回）
利用目的：通院・買い物
利用頻度：1 名あたり月平均 1 回
利用エリア：倉敷市内

（17）庄保育園

在籍児童数：1 7 1 名
年間平均在籍児童数：1 6 7 名（充足率 9 8 %）
入所：1 3 名
退所：0 名

（18）庄なかよし小規模保育園

在籍児童数：2 1 名
年間平均在籍児童数：2 0 名（充足率 1 0 5 %／1 9 名・9 5 %／2 1 名）
入所：2 名
退所：0 名

(19) 庄学区仲よし児童育成クラブ

登録児童数：189名

平均利用児童数：162名／日

入所：7名

退所：70名

待機児童数：0名

(20) 倉敷市ボランティア送迎事業

登録者数：19名

平均利用人数：6名／回

実施回数：24回

延べ利用人数：162名

5. 人材の状況

(1) 職員の状況

期末職員数：335名（前年324名）

入職者数：60名

退職者数：50名

離職率：全体13.2%（前年9.6%）

介護14.1%（前年9.2%）保育9.1%（前年11.4%）

有給休暇取得率 76.4%（前年75.6%）

育児休業取得状況 8名（男性1名・女性7名）（前年11名（男性3名・女性8名））

介護休業取得状況 1名（前年1名）

(2) 人材確保・定着の取組

人材の安定的な確保と定着を図るため、採用活動の強化および働きやすい職場環境づくりに取り組んだ。

【人材確保に関する取組】

- ・学校訪問
- ・就職フェアへの参加（年間9回）
- ・ハローワーク主催の企業説明会への参加（年間5回）
- ・施設説明会の開催（年間7回／高齢分野・年間11回／保育分野）
- ・HPやSNSを活用した職場の魅力発信

多様な採用機会を活用し、求職者への積極的な情報発信および法人理解の促進に努めた。

【人材定着に関する取組】

- ・移乗用リフトの導入による身体的負担の軽減（腰痛予防）
- ・ICT機器の導入による業務効率化および生産性の向上
- ・中堅職員研修の実施によるモチベーション向上およびスキルアップ

職員の負担軽減と働きやすい環境整備、並びに人材育成を通じて、職員の定着率向上に努めた。

【今後の対応】

今後も採用活動の充実を図るとともに、職員が安心して長く働き続けられる職場環境の整備を進め、人材の確保および定着の両面から組織力の向上に努めていく。

（３）実習生の受け入れ

福祉人材の育成および専門職養成への協力を目的として、各事業所において実習生の受入を行った。

【受入状況】

- ・受入人数：３２名
- ・実習からの採用：０名

【主な実習種別】

- ・介護福祉士養成実習
- ・社会福祉士養成実習
- ・介護支援専門員実務研修
- ・看護師養成実習
- ・管理栄養士、栄養士養成実習
- ・保育士養成実習
- ・教員介護体験
- ・高校生職場体験

【取組内容】

各事業所の専門性を活かし、実習生に対して実践的な指導を行った。多職種にわたる実習の受入を通じて、福祉・保育分野の魅力発信に努めた。

【今後の対応】

今後も教育機関との連携を強化し、質の高い実習受入体制の整備を進めるとともに、将来的な人材確保につながる取組として継続していく。

６．人材育成および行事の実施状況

（１）職員研修（内部・外部）

職員の専門性向上およびサービスの質の確保を目的として、年間を通じて計画的に研修を実施した。

・内部研修

虐待防止、身体拘束廃止、感染症対策、事故防止、認知症ケア等の必須研修を中心に実施し、職員の知識および技術の向上に努めた。

【主な研修内容】

- ・虐待および身体拘束防止研修
- ・感染症および食中毒予防研修
- ・事故発生防止および緊急時対応研修
- ・認知症ケア研修
- ・介護技術研修
- ・保育分野における安全対策および保護者支援研修

【主な研修実績】

- ・中堅職員研修（年6回実施）
- ・感染症および食中毒予防研修（複数回実施）
- ・虐待および身体拘束防止研修（複数回実施）
- ・介護技術研修（複数回実施）
- ・保育研修（毎月実施）

・外部研修

職員の専門性向上を目的として、関係機関等が主催する外部研修への参加を促進した。

【参加状況】

- ・研修参加回数：209回
- ・参加延べ人数：258名

【主な研修内容】

- ・ビジネスマナーおよび職員基礎力向上
- ・チームコミュニケーションおよび人材育成
- ・虐待防止
- ・倫理および法令遵守
- ・感染症対策（インフルエンザ、感染性胃腸炎、HIV等）
- ・認知症ケアおよび地域包括ケア
- ・災害対応およびリスクマネジメント
- ・介護技術（ノーリフティングケア等）
- ・ICT・介護ロボット活用
- ・保育の質向上および児童支援

【主な研修実績】

- ・若手職員行動基本セミナー
- ・感染症対応研修
- ・認知症ケア研修
- ・地域包括関連研修
- ・ノーリフティングケア研修

- ・ICT、介護ロボット研修
- ・保育関係研修（保育協議会・キャリアアップ研修）
- ・児童クラブ研修（特別支援対応・安全対策等）

各事業所において、職種や経験年数に応じた研修参加を行い、得られた知識・技術については内部で共有し、サービスの質の向上に努めた。

（２）行事の実施状況

利用者・入居者・園児・児童の生活の質の向上および楽しみの提供、並びに地域との交流を目的として、各事業所において年間を通じて各種行事を実施した。

【主な行事内容】

■季節行事

花見、七夕、納涼会（夏祭り）、敬老会、クリスマス会、節分、ひな祭り等を実施し、季節を感じられる機会の提供に努めた。

■レクリエーション・生活行事

誕生日会、食事会、居酒屋レクリエーション、スイーツバイキング、運動会、ビンゴ大会、文化活動（アレンジメント・寄せ植え等）を実施し、日常生活の充実および楽しみの創出を図った。

■外出・交流行事

花見や外出行事、大学生との交流、地域イベントへの参加等を通じて、社会参加や地域とのつながりの維持に努めた。

■地域連携・地域行事

地域ケア会議、シンポジウム、防災訓練等への参加を通じて、地域との連携強化および地域づくりの推進に努めた。

■保育・児童分野の行事

保育参観、生活発表会、運動会、卒園式、家庭訪問、懇談会等を実施し、保護者との連携強化および子どもの成長支援に努めた。また、季節行事や体験活動を通じて、豊かな感性の育成を図った。

各事業所においては、利用者の状態やニーズに応じた行事の企画・実施を行い、安心して参加できる環境づくりに努めた。

7. 事故防止・リスクマネジメント

（１）事故・ヒヤリハットの状況

【全体状況】

- ・事故件数：416件
- ・ヒヤリハット件数：468件

【主な発生内容】

転倒・転落が最も多く、その他に誤薬・誤食、バルーン抜去、離設、服薬忘れ等が見られた。また、保育・児童分野においては軽微な外傷（打撲・擦り傷等）が中心であった。

【傾向および対応】

高齢者施設においては、身体機能の低下に伴う転倒・転落リスクが高く、個別の状態に応じた見守りや環境整備の重要性が再認識された。ヒヤリハットについては事故防止の観点から積極的に報告を行うよう周知した。

各事業所においては、事例の共有や原因分析を行い、再発防止策の検討および職員への周知徹底に努めた。

【事業所別内訳（主な状況）】

- ・ 特別養護老人ホーム：転倒、転落、バルーン抜去、異食、離設等
- ・ デイサービス：転倒、誤配膳、誤食
- ・ 訪問介護：転倒、器物破損
- ・ グループホーム：転倒、転落、服薬忘れ
- ・ 小規模多機能ホーム：転倒、誤薬、誤食
- ・ 地域包括支援センター：車両事故
- ・ 保育園：軽微な外傷（打撲・擦り傷等）
- ・ 児童クラブ：軽微な外傷（打撲・擦り傷等）

今後も事故の未然防止に向けた取り組みを継続し、安全で安心できるサービス提供に努める。

（２）感染症発生状況

感染症の発生状況については、各事業所において適切な予防対策および発生時の迅速な対応に努めた。

【発生状況】

高齢者施設においては、新型コロナウイルス感染症を中心に、ノロウイルス、疥癬、インフルエンザ等の発生が見られた。また、保育分野においては、インフルエンザ、RSウイルス、溶連菌感染症、手足口病等、季節性の感染症が複数発生した。

一部事業所においては、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したが、関係機関と連携し、適切な対応を行うことで拡大防止に努めた。

【主な発生内容】

- ・ 新型コロナウイルス
- ・ インフルエンザ（A型・B型）
- ・ ノロウイルス
- ・ RSウイルス
- ・ 溶連菌感染症
- ・ 疥癬
- ・ 手足口病 等

【対応状況】

感染症発生時には、速やかに情報共有を行い、ゾーニング、消毒の徹底、健康観察の強化、必要に応じたサービス調整等を実施し、感染拡大防止に努めた。また、平時より手指衛生の徹底、環境整備、研修の実施等により予防対策の強化を図った。

【今後の対応】

今後も感染症対策の徹底を図るとともに、発生時における迅速かつ適切な対応体制の維持・強化に努め、安全で安心できるサービス提供を継続していく。

（３）避難訓練の実施状況

利用者・入居者・園児・児童および職員の安全確保を目的として、各事業所において計画的に避難訓練を実施した。

【実施状況】

入居施設および在宅系事業所においては、年２回を基本として避難訓練を実施した。保育園および小規模保育園においては、毎月の訓練を基本とし実施した。

【主な訓練内容】

- ・火災想定訓練（昼間・夜間想定）
- ・地震想定訓練
- ・風水害想定訓練
- ・不審者対応訓練

【実施の特徴】

夜間帯を想定した訓練を実施することで、少人数体制での対応力向上を図った。また、保育分野においては、月次での訓練実施により、子どもたちへの安全教育および職員の危機対応力の強化に努めた。

【今後の対応】

今後も実践的な訓練を継続し、災害発生時における迅速かつ的確な対応が行えるよう体制強化に努めていく。

（４）ＢＣＰに基づく訓練の実施状況

感染症および災害発生時における事業継続体制の強化を目的として、ＢＣＰ（事業継続計画）に基づく訓練を実施した。

【実施状況】

法人全体として、感染症対応訓練および災害時対応訓練を中心に、年間複数回の訓練を実施した。

【主な訓練内容】

- ・感染症発生時の初動対応訓練
- ・ゾーニングおよび情報共有訓練
- ・災害発生時の避難
- ・安否確認訓練
- ・事業継続を想定した対応訓練

【実施の特徴】

年4回の訓練を実施し、継続的な対応力の向上に努めた。また、一部事業所においても年2回以上の訓練を実施し、各事業の特性に応じた実践的な訓練を行った。

【今後の対応】

今後も訓練内容の充実を図るとともに、実際の発生時に即した実効性の高い訓練を継続し、事業継続体制の強化に努めていく。

また、保育分野においては現時点でBCP訓練の義務付けはないものの、災害や感染症発生時の対応力向上の観点から、今後は計画的な訓練の実施について検討を進めていく。

8. 組織運営体制

（1）運営推進会議の開催状況

地域密着型サービスにおいては、サービスの透明性の確保および地域との連携強化を目的として、法令に基づき運営推進会議を定期的に開催した。

【開催状況】

各事業所において概ね2か月に1回の頻度で開催し、年間を通じて適切に実施した。

- ・グループホーム庄の里「なごみの家」：6回
- ・グループホーム庄の里「和らぎの家」：6回
- ・小規模多機能ホーム庄の里「つどいの家」：6回
- ・地域密着型特別養護老人ホーム庄の里「なごやか」：6回
- ・デイサービスセンター庄の里「なごやか」：6回
- ・認知症対応型デイサービスセンター庄の里「なごやか」：6回

会議においては、利用状況の報告、サービス内容の説明、事故・苦情の報告、地域からの意見聴取等を行い、サービスの質の向上および地域との関係強化に努めた。

また、児童クラブにおいても、運営状況の報告および保護者・関係者との情報共有を目的として、年2回の定期報告会を実施した。

今後も地域との連携を重視し、開かれた事業運営の推進に努めていく。

（2）各種委員会の開催状況

職員の安全確保およびサービスの質の向上を目的として、各種委員会を定期的に開催した。

【安全衛生委員会】

労働安全衛生の確保を目的として、安全衛生委員会を毎月開催し、職場環境の改善および職員

の健康管理に努めた。

【主な委員会の開催状況】

各事業所において、以下の委員会を定期的に開催した。

- ・感染症対策委員会
- ・身体拘束および虐待防止委員会
- ・事故防止委員会
- ・生産性向上に関する委員会 等

委員会では、事例の共有や課題の整理、改善策の検討を行い、各事業所における取組の推進およびサービスの質の向上に努めた。

【開催状況の特徴】

各事業所の規模や特性に応じて開催頻度に差はあるものの、必要に応じた柔軟な運営を行い、継続的な改善活動につなげている。今後も委員会活動を通じて、リスク管理の強化および職員の意識向上に努めていく。

（３）責任者会議等の実施状況

法人全体の運営状況の共有および各事業所間の連携強化を目的として、責任者会議を毎月開催した。会議においては、各事業所の運営状況、利用状況、事故・ヒヤリハット、感染症対応、人員配置等について報告・共有を行うとともに、課題の整理および改善策の検討を行った。また、法人全体としての方針の周知や情報共有を図り、統一した運営の推進に努めた。

今後も継続的な会議運営を通じて、組織全体の連携強化およびサービスの質の向上に努めていく。また、法令遵守の徹底を図るため、各種規程の整備および自己点検を実施した。

（４）苦情対応

本年度における苦情の発生状況については、各事業所において適切に受付・記録を行い、再発防止に向けた対応を実施した。

【発生状況】

- ・苦情件数：１９件

【主な内容】

利用者対応に関するものや、家族への説明不足・情報共有の不備に関する内容が主であった。

【対応状況】

苦情発生時には速やかに事実確認を行い、関係者間での情報共有を徹底するとともに、利用者・家族への説明および再発防止策の検討を行った。また、必要に応じて職員への指導や業務改善を実施し、サービスの質の向上に努めた。

【今後の対応】

今後は、日常的なコミュニケーションの充実および説明責任の徹底を図るとともに、職員の接遇意識の向上に取り組み、苦情の未然防止に努めていく。

(5) ハラスメント相談対応の状況

ハラスメントに関する相談は2件あった。

【主な内容】

職員間における指導方法やコミュニケーションのあり方に関する相談が主であった。

【対応状況】

各相談については事実確認を行い、関係職員への聞き取りを実施した結果、いずれもハラスメントには該当しないものと判断した。しかしながら、指導方法や伝え方について改善の必要性が認められたことから、該当職員への助言・指導を行い、職場内のコミュニケーション改善に努めた。

【今後の対応】

今後も相談しやすい体制の維持に努めるとともに、適切な指導方法やハラスメント防止に関する意識向上を図り、職員が安心して働ける職場環境の整備を進めていく。